

公益信託 農林中金 80 周年森林再生基金 (FRONT80)
平成 25 年度 助成金交付申請書 記載要領

- ※ 当基金の助成先決定のための一次審査は、本申請書を中心に行います。
- ※ 助成金交付申請書は、フォント (MS 明朝、10.5p) ・文字数・表 (行の高さ、列幅) など指定の書式を変更せずに記入してください。
- ※ 申請書は、正・副 2 部を郵送してください。
- ※ 「項目 9~12」の様式は、1) 通常の申請の場合、2) ソフト事業のみを申請する場合とで異なります。「項目 1~8」「項目 13、14」は共通様式です。

＜記載項目＞

2. 事業運営体制および活動実績・理念

- ※直近の事業報告書・財務資料等関係資料を別途添付してください。
- ※申請された事業を遂行するに際し、十分な事業運営が可能か参考とします。
- ※直近の事業実績について、数量・金額が分かるように記入してください。

【記載例】平成〇〇年度の事業実績

現場技術者数	〇〇名					
班構成	林産班	△班〇名、	造林班	△班〇名		
プランナー人数	〇名	(うち認定プランナー 〇名)				
保有機械	〇〇〇	△台、	〇〇〇	△台、	〇〇〇	△台
施業集約化面積	〇〇地区	〇〇ha				
森林整備事業	〇〇ha	〇〇千円				(@〇〇円)
林産事業	〇〇m ³	〇〇ha	〇〇千円			(@〇〇円)
作業道開設延長	〇〇m	〇〇千円				(@〇〇円)

※記載内容は、事業内容に応じて適宜変更してください。

3. 事業名

- ※事業内容をふまえた簡潔な事業名を記入してください。

4. 申請金額

- ※申請金額を記入してください。

5. 事業目的 (コンセプト)

- ※本事業を行う背景 (事業対象地における森林整備の現状、課題) と目的 (意図、思いなど) を具体的かつ簡潔に記入してください。

6. 事業内容 (概要)

- ※本事業を行う地域、事業対象地における森林整備の現状、課題と、それを踏まえて、今回申請している事業の具体的内容を記入してください。
- ※具体的内容としては、荒廃した民有林の一定の区域 (事業対象地) において、複数の森林所有者との長期安定的な契約を締結した上で、公益性を発揮し、費用対効果に十分配慮した創造的な事業であることをアピールするために、以下のポイント等につ

いて記入してください。

- ①地域、事業対象地の現状、課題
- ②地域の特性を踏まえた公益性が高く、創造的な事業である根拠
- ③長期安定的な契約についての取組状況（当該地についての考え方を含む。）
- ④再生事業の具体的な内容（森林整備を含むハード事業は必須です。）
- ⑤事業を実施するにあたり、経費の算出で特に留意した点（機械化と路網の組合せによる新たな生産システムへの取組による低コスト化など）

※公益的な施業とは、例えば、荒廃した民有林における多面的な機能発揮を目指した利用間伐・伐捨間伐、被害森林の整理伐・更新、天然更新のための択伐等の森林整備を考えています。

7. 森づくりの長期ビジョンと本事業の位置付け

※貴法人が定めている地域の森林管理の中長期的なビジョン、森林管理方針などの森づくりのビジョン（特に決定した森づくりのビジョンが無い場合は、地域の森林整備を森林所有者に働きかけを行うに当たっての基本的な考え方等）と、今回応募した本事業が森づくりのビジョンなどとの関係においてどのような位置付けになるかについて記入してください。NPO法人等の場合は、「地域」については、「活動区域等」と読み変えてください。

※本事業の位置付けとは、地域全体の森林管理の中で事業対象地の現状がどのような位置づけ（地域全体の中で、事業対象地は森林管理の状況が比較的低位にある、路網の整備が著しく遅れているなど）にあり、森づくりのビジョンなどに基づいて、どのような整備を行おうとしているのかを記入してください。

※本事業を行うに当たって、参考とした先進事例、施業方法、専門家からの指導等があれば記入してください。

※従来から連携してきた行政、地元住民、森林ボランティア団体、森林・林業関連団体等との連携を発展させるもの、あるいは、今後連携を図っていく予定があるものについては、そのようなことも記入してください。

【記載例】

7. 森づくりの長期ビジョンと本事業の位置付け(1,000字以内)

施業の合理化・一体化を一層図り、森林資源の効率的循環・利用を重視し、適切な森林整備を組合主導で積極的に推進、優良材の生産に努めるとともに、森林の有する機能を高度に発揮させるため、地位・地利、地形・地質等の条件を考慮した上で水源涵養、山地災害防止、生物多様性の保全機能等を重視する環境保全林、木材生産機能を重視する経済林に区分。環境保全林は、下層植生の発達を確保するため必要に応じて保育を実施するとともに、複層状態の森林（針広混交林、広葉樹林）へ誘導する。経済林は、森林の健全性を確保し、需要に応じた樹種及び径級の木材の持続的な供給を行うことを目指して、適切な間伐等の森林施業を積極的に推進する。

また、現在の施業ノウハウや新たな林業技術の習得を通じて、効率的かつ持続性の高い先進的な施業方法を確立し、組合員に対し魅力的な施業プランを提案する

ことにより、意欲を喚起し、地域の豊かな森林資源を創造することとする。

本事業においては、上記の森林づくりのビジョンに基づき必要な施業を行うこととする。対象事業地の多くの森林が放置されており要間伐・過密森林であるが、台風等の被害の恐れもあり、一度に急激な間伐は避けることとする。路網については、主要な林道は整備されているものの、利用間伐に必要な作業道の整備は低位な状況であるため、機能区分によりゾーニングを行った上で、利用間伐に必要な最小限の路網を整備する。

境界確定及び森林資源調査のデータ構築に取り組んでいるが、本格的な運用に至っておらず、本事業を通じて集積データの高度活用を目指す。具体的には測量士の臨時職員を活用するとともに、森林資源調査の手法を検討・実行し、データの活用には、昨年研修に訪問した〇〇森組の事例を参考に GIS（今年度導入予定）を活用する。

さらに、〇〇森組の取組みを参考に、素材生産の工程ごとに工程量、コスト分析を行い、今後の低コスト化、マニュアル化に役立てるとともに、新たな素材生産の目標（工程量、コスト等）を設定することとする。本事業で得たノウハウ、情報等は提案力の向上に活用するとともに、地域住民と共有し、その意欲の喚起につなげ、長期契約に基づく集約化施業を一層推進していくこととする。

8. 本事業実施による波及効果

※本事業の成果として想定している事項について記入する（生産性の向上等については、出来る限り定量的に）とともに、次のような波及効果についての考え方を記入してください。

※例えば、地域内の波及について、他に類似の荒廃森林が〇ヶ所、〇〇ha あり、本事業の経験、実績展示等による情報発信等により、次年度以降に森林整備を計画する予定であるなど、今後の具体的な数字を含めた波及効果について記入してください。

※また、地域内の波及に加えて、インターネットによる情報発信等により広域、全国への波及を考えていることなどについて記入してください。

9. 事業対象地とハード事業の内容

※(1) 事業対象地の森林については、団地が複数ある場合には、団地ごとに所在地、面積、森林所有者数を記入してください。

※(2) 事業実施箇所ごとの森林現況とハード事業の内容については、事業実施箇所を示した図面（下記の添付資料）に記入した番号ごとに、区域面積、樹種・林齢（齢級）、面積、ハード事業の内容を記入してください。また、必要に応じて、作業内容、仕様が分かるように間伐方法（定性／列状、利用／伐捨）や間伐率（本数／材積）、搬出率等の数値などを加えてください（記載例 1 参照）。

10. ソフト事業の内容

※本事業の中のうち、ソフト事業としての取組について、何のために、何を行うのかについて具体的に記入してください（記載例 1 参照）。なお、ソフト事業のみの申請も認めます。この場合、次年度以降に必ず森林整備のハード事業を計画し、ソフト事業の計画

と同時に提出してください（記載例 2 参照）。「項目 1～8」についても、ソフト事業のみだけではなく、ハード事業とソフト事業の内容を一体的に記してください。

11. 施業カレンダー

※ハード・ソフト事業として予定している事業項目ごと（項目が多すぎるときは、適宜まとめて下さい。）に、月次の実施計画を施業カレンダーに図示してください（記載例 1 参照）。

12. 事業費・助成金

※ハード・ソフト事業にかかる経費、助成金以外の収入および本件助成金額を算出するに当たっては、表に記載されている単位ごとの単価を基に出来る限り詳細に計算してください（記載例 2 参照）。単価の算出根拠については、後日改めて照会させていただくことがありますので、採用した算出根拠は明らかにしておいてください。

※算出根拠の単位が指定されていない項目に関しては、新たに単位を記入してください。

13. 写真

※事業対象地の写真のうち、事業の背景や必要性がわかるような代表的なもの 4 点程度を枠内に収まるように添付してください。直下にその写真の説明を加えてください。

14. 事業計画図（縮尺 1/5,000 又は 1/10,000、A4 又は A3 用紙 1 枚）

※具体的な面的計画を明らかにした図面

本事業の対象区域、施業実施区域（利用・伐捨間伐等）、路網計画（林業専用道、森林作業道別等）を明示してください。

<必要書類>

- ・法人登記簿謄本（全部事項証明書）写し可
- ・直近の事業報告書・財務資料等

< 記載例 1 >

平成 26 年度（通常の申請）

9. 事業対象地とハード事業の内容

(1) 事業対象地の森林

所在地	区域面積	実施面積	森林所有者数
○県○郡○町○大字○○～△△番地、××番地	150.00ha	75.00ha	80名
〃 □□番地	100.00ha	35.00ha	20名
	計 250.00ha	計 110ha	計 100名

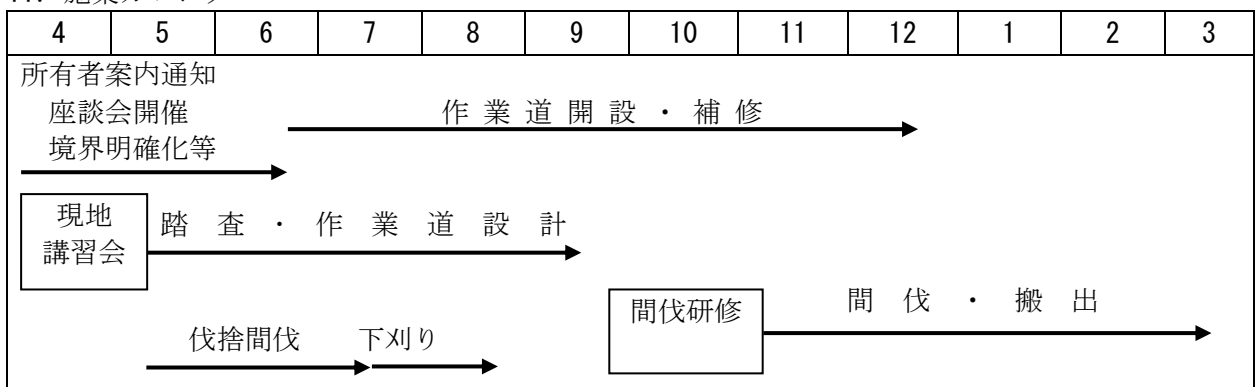
(2) 事業実施箇所ごとの森林現況とハード事業の内容

番号	区域面積	樹種・林齢 (年齢)	実施面積 ha	ハード事業の内容
1	150.00	ヒノキ 1～2 年齢級	20.00	下刈り 20ha 伐捨間伐 30ha 3 残 1 伐列状間伐 25ha 搬出材積 1,500 m ³ [本数間伐率 30% (支障木含む) 搬出率 60% 推定材積 60 m ³ /ha]
		ヒノキ 5 年齢級	30.00	
		スギ 8 年齢級	15.00	
		スギ 9 年齢級	10.00	
		実施面積計	75.00	
2	100.00	ヒノキ 5 年齢級	20.00	伐捨間伐 20ha 定性間伐 15ha 搬出材積 900 m ³ [本数間伐率 25% (支障木含む) 搬出率 70% 推定材積 60 m ³ /ha]
		ヒノキ 10～12 年齢級	15.00	
		実施面積計	35.00	
3	250.00	(全域)		作業道開設 6,000m・補修 600m (幅員 3.0m 以下)

10. ソフト事業の内容

<p>所有者案内通知・座談会開催：不在村者を含むスギ・ヒノキ人工林所有者 100 人を対象に、案内の通知および座談会の開催を通じて、長期の施業委託契約を締結する。</p> <p>境界明確化等調査：施業計画の取りまとめを図るために、境界明確化等の調査を実施して施業集約化の計画を策定する。</p> <p>現地講習会：施業集約化・ハード事業の達成を目的として、講師を招いた現地講習会を開催する。</p>

11. 施業カレンダー



< 記載例 1 >

平成 26 年度（通常の申請）

12. 事業費・助成金

		費用・収入等	算出根拠	単位
ハ ー ド 事 業 経 費	選木費	960,000	2,400 m ³ ×¥400	円/m ³
	伐出費	19,200,000	2,400 m ³ ×¥8,000(伐倒・集材・造材含む)	円/m ³
	運搬費	4,800,000	2,400 m ³ ×¥2,000	円/m ³
	作業道開設費	9,180,000	(開設)6,000m×¥1,500 (補修)600m×¥300	円/m
	造林保育費 1	7,500,000	(伐捨)50ha×¥150,000	円/ha
	造林保育費 2	2,200,000	(下刈り)20ha×¥110,000	円/ha
	小計①	43,840,000		
ソ フ ト 事 業 経 費	境界等調査費	3,150,000	105ha×¥30,000	円/ha
	座談会関係費	200,000	(座談会)2回×70,000 (案内通知等)60,000	円/回 円/回
	講習会開催費	200,000	講師旅費・謝金等	
	小計②	3,550,000		
事業費合計③ (①+②)		47,390,000		
助 成 金 以 外 の 収 入	原木販売収入	16,200,000	スギ 1,500 m ³ ×¥6,000 ヒノキ 900 m ³ ×¥8,000 ※市場手数料、はい積料を除いた手取り単価	円/m ³
	その他販売収入			
	補助金	11,660,000	①利用間伐@170,000円×25ha ②伐捨間伐@102,000円×30ha ③下刈り @ 75,000円×10ha ④作業道 @ 600円×6,000m	
	収入小計④	27,860,000		
本件助成金額 (③-④)		19,530,000		
自 己 資 金	間伐研修	300,000	3名×研修費用(参加費・旅費)100,000	円/人
	合計	300,000		

※ 本事業の実施に必要で、助成対象外となる経費・物品等があれば自己資金欄に記入してください。

<記載例2>

平成 26～27 年度（ソフト事業のみの申請）

9. ソフト事業の事業対象地と内容（平成 26 年度実施）

(1) 事業対象地の森林

所在地	区域面積	実施面積	森林所有者数
○県○郡○町○大字○○～△△番地、××番地	150.00ha	75.00ha	80名
〃 □□番地	100.00ha	35.00ha	20名
	計 250.00ha	計 110ha	計 100名

(2) ソフト事業の内容（平成 26 年度実施）

<p>所有者案内通知・座談会開催：不在村者を含むスギ・ヒノキ人工林所有者 100 人を対象に、案内の通知および座談会の開催を通じて、長期の施業委託契約を締結する。</p> <p>境界明確化等調査：施業計画の取りまとめを図るために、境界明確化等の調査を実施して施業集約化の計画を策定する。</p> <p>現地講習会：施業集約化・ハード事業の達成を目的として、講師を招いた現地講習会を開催する。</p>

10. 施業カレンダー

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
26 年 度	所有者案内通知											
	座談会開催			境界明確化等			→					
	<div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 5px;">現地講習会</div>											

11. ハード事業の内容と事業実施箇所ごとの森林現況（平成 27 年度実施）

番号	区域面積 ha	樹種・林齢 (齢級)	実施面積 ha	ハード事業の内容
1	150.00	ヒノキ 1～2 齢	20.00	下刈り 20ha 伐捨間伐 30ha 3 残 1 伐列状間伐 25ha 搬出材積 1,500 m ³ [本数間伐率 30% (支障木含む) 搬出率 60% 推定材積 60 m ³ /ha]
		ヒノキ 5 齢級	30.00	
		スギ 8 齢級	15.00	
		スギ 9 齢級	10.00	
		実施面積計	75.00	
2	100.00	ヒノキ 5 齢級	20.00	伐捨間伐 20ha 定性間伐 15ha 搬出材積 900 m ³ [本数間伐率 25% (支障木含む) 搬出率 70% 推定材積 60 m ³ /ha]
		ヒノキ 10～12	15.00	
		実施面積計	35.00	
3	250.00	(全域)		作業道開設 6,000m・補修 600m (幅員 3.0m 以下)

<記載例2>

平成 26~27 年度（ソフト事業のみの申請）

12. 事業費・助成金

(1) ソフト事業経費（平成 26 年度実施、助成対象）

		費用・収入等	算出根拠	単位
ソフト事業経費	境界等調査費	10,500,000	350ha×¥30,000	円/ha
	座談会関係費	200,000	(座談会)2回×¥70,000	円/回
			(案内通知等) ¥60,000	円/回
	講習会開催費	200,000	講師旅費・謝金等	
	小計①	10,900,000		
助成金以外の収入	補助金	475,000	施業実施区域の明確化作業（9 齢級以下の人工林）@ 5,000 円×95ha	円/ha
	その他の収入	0		
	収入小計②	475,000		
本件助成金額 (① - ②)		10,425,000		
自己資金	間伐研修	300,000	3名×研修費用(参加費・旅費)100,000	円/人
	合計	300,000		

(2) ハード事業経費（平成 27 年度実施、自己資金）

		費用・収入等	算出根拠	単位
ハード事業経費	選木費	960,000	2,400 m ³ ×¥400	円/m ³
	伐出費	19,200,000	2,400 m ³ ×¥8,000(伐倒・集材・造材含む)	円/m ³
	運搬費	4,800,000	2,400 m ³ ×¥2,000	円/m ³
	作業道開設費	9,180,000	(開設)6,000m×¥1,500 (補修)600m×¥300	円/m
	造林保育費 1	7,500,000	(伐捨)50ha×¥150,000	円/ha
	造林保育費 2	2,200,000	(下刈り)20ha×¥110,000	円/ha

※ 本事業の実施に必要で、助成対象外となる経費・物品等があれば自己資金欄に記入してください。

